

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 30 日 (2021.9.30)

【公表番号】特表 2020-536659 (P2020-536659A)

【公表日】令和 2 年 12 月 17 日 (2020.12.17)

【年通号数】公開・登録公報 2020-051

【出願番号】特願 2020-520294 (P2020-520294)

【国際特許分類】

A 6 1 M 25/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/06 5 0 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 8 月 17 日 (2021.8.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カテーテルシステムであって、

カテーテルアセンブリであって、

遠位端部、近位端部、前記遠位端部と前記近位端部の間に延びる管腔、および側部ポートを有するカテーテルハブと、

前記カテーテルハブの前記遠位端部から遠位に延びるカテーテルと、

遠位端部および近位端部を有する延長チューブであって、前記延長チューブの前記遠位端部が前記側部ポートに結合されている、延長チューブと、

前記延長チューブの前記近位端部に結合されたアダプタと、
を備えたカテーテルアセンブリと、

前記アダプタに結合された流体貯蔵ユニットであって、前記流体貯蔵ユニットが、リザーバー、バリア、およびアクチュエーターを含み、前記アクチュエーターによる前記バリアの突破に応答して、前記リザーバーが、前記カテーテルハブの前記管腔と流体連通する、流体貯蔵ユニットと、

前記リザーバー内に配置された流体と、
を備えた、カテーテルシステム。

【請求項 2】

前記アクチュエーターによる前記バリアの突破、および前記流体貯蔵ユニットを搾ることに応答して、前記流体が前記リザーバーから前記カテーテルハブの前記管腔内に流れる、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 3】

前記流体貯蔵ユニットの近位部と前記流体貯蔵ユニットの遠位端部とを互いに近づけることに応答して、前記バリアが前記アクチュエーターによって突破される、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 4】

前記アダプタは Y アダプタを含む、備える請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 5】

前記流体貯蔵ユニットの前記遠位端部はルアーアダプタを含む、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 6】

前記アクチュエーターは中空スパイクを含む、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 7】

前記バリアはセプタムを含む、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 8】

前記バリアは膜を含む、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 9】

前記膜は疎水性である、請求項 8 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 10】

前記流体貯蔵ユニットは、前記アクチュエーターと位置合わせされた前記流体貯蔵ユニットの軸に向かって圧縮可能である、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 11】

前記流体貯蔵ユニットは、前記アクチュエーターに垂直な前記流体貯蔵ユニットの軸に向かって圧縮可能である、請求項 1 に記載のカテーテルシステム。

【請求項 12】

方法であって、

カテーテルシステムを提供することであって、

カテーテルアセンブリであって、

遠位端部、近位端部、前記遠位端部と前記近位端部の間に延びる管腔、および側部ポートを有するカテーテルハブと、

前記カテーテルハブの前記遠位端部から遠位に延びるカテーテルと、

遠位端部および近位端部を有する延長チューブであって、前記延長チューブの前記遠位端部が前記側部ポートに結合されている、延長チューブと、

前記延長チューブの前記近位端部に結合されたアダプタと、
を備えたカテーテルアセンブリと、

前記アダプタに結合された流体貯蔵ユニットであって、前記流体貯蔵ユニットが、リザーバー、バリア、およびアクチュエーターを含み、前記アクチュエーターによる前記バリアの突破に応答して、前記リザーバーが、前記カテーテルハブの前記管腔と流体連通する、流体貯蔵ユニットと、

前記リザーバー内に配置された流体と、
を備えたカテーテルシステムを提供することと、

前記リザーバーが前記カテーテルハブの前記管腔と流体連通するように前記アクチュエーターで前記バリアを突破することと、
を備えた方法。

【請求項 13】

前記流体が前記リザーバーから前記カテーテルハブの前記管腔に流れるように、前記流体貯蔵ユニットを搾ることをさらに備える、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記アクチュエーターで前記バリアを突破することは、前記流体貯蔵ユニットの近位部と前記流体貯蔵ユニットの遠位端部とを互いに近づけること、を備える、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 15】

前記アクチュエーターは中空スパイクを含む、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 16】

前記アダプタは第 1 のポートおよび第 2 のポートを備え、前記延長チューブの前記近位端部は前記第 1 のポートに結合されており、前記第 2 のポートを静脈内流体バッグに結合することをさらに備える、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 17】

前記流体貯蔵ユニットの前記遠位端部はルーアーアダプタを含む、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 18】

前記バリアはセプタムまたは膜を含む、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 19】

前記流体貯蔵ユニットは、前記アクチュエーターと位置合わせされた前記流体貯蔵ユニットの軸に向かって圧縮可能である、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 20】

前記流体貯蔵ユニットは、前記アクチュエーターに垂直な前記流体貯蔵ユニットの軸に向かって圧縮可能である、請求項 12 に記載の方法。